

# 茂原市リサイクル推進委員会会報

## 会長あいさつ

皆様、平素より当委員会のリサイクル推進活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。皆様の協力添えをいただき、着実にリサイクル意識の向上と、持続可能な社会の実現に向けた活動を進めることができいております。

本年度は、コロナ禍以降はじめての全委員を対象とした学習会を開催し、大変多くの方々にご参加いただきました。「SDGsを考えよう！」をテーマに、SDGsの基本知識から発展的な内容まで、幅広い学びを得ることができ、リサイクルに対する意識の向上につながりました。また、各地区での学習会、視察研修などを通して、リサイクルの推進に尽力いたしました。

しかし、まだまだ解決すべき課題は山積みです。リサイクルは一人ひとりの意識と行動から始まります。リサイクルをより推進していくためには、さらに多くの方々の意識を高め、行動を促す必要があります。今後とも、皆様と共にクリーンで持続可能な未来を築くために邁進してまいりますので、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

茂原市リサイクル推進委員会  
会長 露崎 皓久

## 総会表彰

### 市長表彰

(個人) 石黒 信一様 (二宮地区)

### 主な功績

リサイクル推進委員会 委員  
平成24年から現在まで  
リサイクル推進委員会 理事  
平成24年から平成29年まで

### リサイクル推進委員長表彰

(個人) 岩名地 良一様 (二宮地区)  
主な功績  
リサイクル推進委員会 委員  
令和元年から現在まで

リサイクル推進委員会 理事  
平成29年から平成30年まで



※表彰を受ける石黒氏

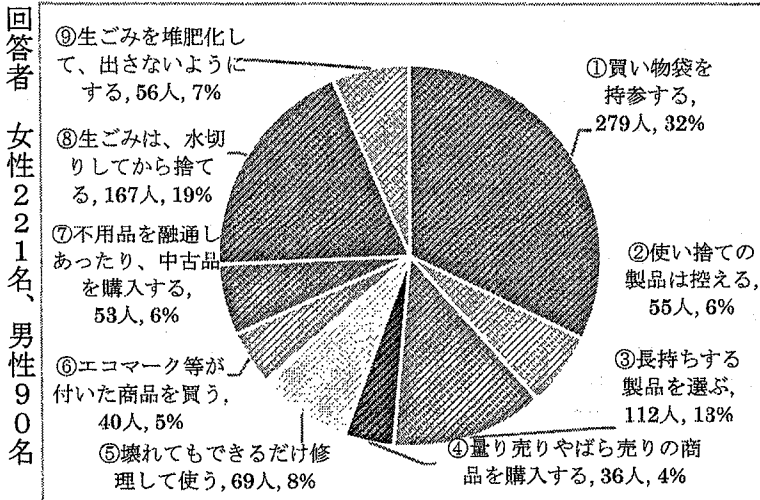


## 産業まつりのアンケート結果について

令和6年11月3日(日)文化の日に、2年ぶりとなる産業まつりに出展いたしました。ブースでは、リサイクルの啓発に努めるとともに、来場者にアンケート調査を行い、エコバッグやキャブーン(茂原高校「Eco」茂高街塾製作)、ゴミ出しのポイントをまとめた冊子等を配布しました。

### アンケート結果(一部抜粋)

Q. 日頃の暮らしの中で、ごみ減量やリサイクルのために実践している取組はありますか？(複数選択可)



## 活動報告(茂原東部・西部地区)

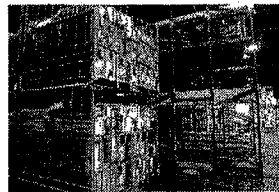
### 茂原西部地区 活動報告

「身近にある家電製品がどのようにリサイクルされているか」をテーマに、市川市にある㈱ハイパーサイクルシステムズを視察しました。

この会社では、テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機・OA機器等の家電を、様々な技術を用いた解体ラインにより最終的に鉄・プラスチック・非鉄金属等の「再生素材」に生まれ変わらせます。リサイクル率は99%だそうです。

「再生素材生産工場」として、\*高品質な再生素材の家電製品への再利用の促進\*限りある資源を有効活用して高度な循環型社会の構築貢献を目指している役割の一端を見学しました。企業でのリサイクルは日々進歩しています。

この製品はリサイクルできる?と悩んだ時は、本委員会が発行した保存版「ゴミ出しのポイント」を活用してください。



### 茂原東部地区 活動報告

令和6年度の学習会・視察研修会は、茂原東部・中央・西部が協力し、合同で行いました。

学習会(茂原東部主催)は、テーマを「茂原市の下水道処理・汚泥処理のしくみ」とし、講師に茂原市役所下水道課の職員の方々を招き、7月6日(土)茂原市総合市民センター グループ室にて開催しました。

理解しやすい資料を使用した講義が終了した後、参加者7名から各地区に関連した質問がありました。

講師からは、各質問に対して丁寧な回答があり有意義な学習会となりました。



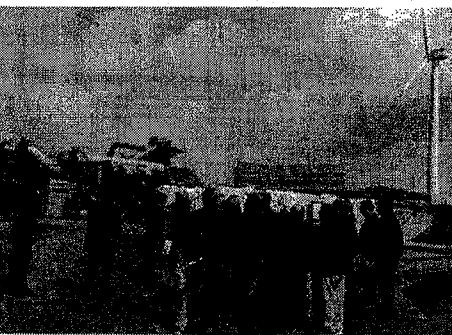
## 活動報告(二宮地区)

### 脱炭素化社会の実現に取り組む企業研修を終えて

世界は、地球温暖化により生じた気候変動、それに付随する被害が発生しており事態は深刻です。2020年パリ協定では、温室効果ガス削減の「緩和施策」と「適応施策」の削減目標を約束しました。

日本は、世界の動きに同調し、温室効果ガス削減目標を掲げ、温室効果ガス削減に向け、行政と企業等そして国民が一体化して努力しています。

令和5年度は、このような状況を踏まえガラスリソーシング株式会社(銚子市)を研修しました。研修した企業が、家庭の一般廃棄物等として回収されるびん・ガラス・陶磁器等が破砕造粒ライン処理により安全・無害にサンドウエーブ化して地盤改良材等として活用していること、従前ガラスびんの原材料とならないとされていた色付きびんや埋め立て廃棄処分されていたガラス・陶磁器等もサンドウエーブ化している企業の真摯な姿を学びました。脱炭素化社会の実現を目指し、私たち一人一人がリサイクル循環型の営みを行い、家庭部門のゴミ排出量を縮小することの重要性について改めて認識しました。



(びん・ガラス・陶磁器等のサンドウエーブ化ラインを研修中)

二宮地区は、引き続き、市内リサイクル推進委員会と力を合わせ、後世を生きる子孫のために美しい自然環境の維持向上に努力をしていきたいと思えます。